

2014 年の一般会計概算要求の総額は、過去最大の 99 兆 2500 億円に加えて、特別会計東日本大震災の復興予算要求と合算しますと 102 兆 6377 億円となります。

すでに国の借金は凡そ 1000 兆円。企業の債務高は 830 兆円、日本の正味資産（国富）は 3000 兆円超、対外資産 300 兆円超、預貯金は 1420 兆円と言われております。税収は 45 兆円前後？アベノミクス効果と消費税収が順調に進んでも税収は 50 兆円台そこそこかなと私は思っております。

中でも厚生省の予算要求は自然増 1 兆円以上を含めると 30 兆 5620 兆円と言う巨額な社会保障額であり、急速に進む少子高齢化への負担であります。

一方、日本経済の大動脈である貿易収支はすでに 17 か月も連続して赤字であります。

原発事故による火力発電用の原油、液化天然ガス等の輸入代金の増大によって、さては所得収支まで食いつぶして経常収支赤字が昨年は 2 か月ありました。

日本への信頼が心配されます。

私達が住む君津市の財政も、平成 20 年度に比べますと現在では凡そ 30 億円超の減収が続いております。

3 年ほど前の年頭の辞の中で、「東日本大震災による防災教訓、企業の現地生産供給化を考えればこれからは東京湾にコンビナートがこのまま存在するとは思えません。四市は将来の財政難を想定して合併を急ぐべきです。」と提唱致して参りましたが、昔のまちやむらの方が良かったと言う懐旧論にかき消されがちであります。過去へは絶対戻れない時代進化の現実であります。アベノミクスが大成功しても社会保障の増大によって財政負担は軽減できるとは思えないからであります。

今一つ、今から 10 年前の会頭就任の折、先ず最初に皆さんに提案しておりました事は「市内循環型経済」であります。買物、修理、工事は市内の仲間達を活用して下さい。仮に少し位高くても品揃えが悪くとも、市内で買い物しお金を循環させれば消費在庫回転率が良くなりますので市内の景気は良くなりますよ。

県外に本社のある店で支払ったお金は、一回転せず県外へと流出してしまうからであります。

アベノミクスの考えも同じで、大幅な金融緩和、財政出動によって国内にお金を流動させ、消費回転率を上げれば景気は良くなるという政策であります。またインフレーターゲットは本来、インフレ抑制策であります。アベノミクスは全く逆で、デフレ解決のための方法であります。

私は何度か申し上げておりますが、近代文明社会では 4%位のインフレーターゲットが必要であり、それ位無いと中小企業は生き残れないと考えて居ります。明治以来、日本のインフレ率は 2 万%と言われますが、私は 20 万%位と思います。日清、日露、第 2 次世界大戦の国の膨大な借金は、国民が気付かぬまま自然消滅してしまったことが証拠であります。

房総半島の歴史始まって以来の 3 千万人の観光客を受け入れ、これからの君津の産業経済の柱とするためにも、財政が苦しくとも市長構想の「フルーツライン」「市内 30 分間道路」の実現は市民、行政が協力して急がなければと願っております。